

4区 早稲田ゆきさん



自民党公認と無所属（自民党党籍）の2人の現職を破って、早稲田ゆきさんが議席を勝ち獲りました。鎌倉市長選挙との同日選という慌ただしい中でしたが、公選ハガキの協力や、街宣活動などに参加。共に「安倍一強政治はNO!」とメッセージしました。（保坂れい子/ネット鎌倉・市議）

7区 中谷一馬さん



刻々と変わる情勢の中で、NPOやワーカーズ・コレクティブで日々政治課題に向き合っているメンバーが、時間をひねり出して駆けつけました。地域の支援者やインターンシップの学生たちも数多く参加する選挙。最終日には、皆で6800件/1日の電話をかけ切りました。当選という結果とともに多くの学びがありました。（渡辺さよ子/ネットつづき）



第48回衆議院選挙 地域からつくり・変える

選挙結果

当	1区	しのはら豪	78,019票	比例区
当	3区	伊藤久美子	26,314票	選挙区
当	4区	早稲田ゆき	67,020票	選挙区
当	6区	あおやぎ陽一郎	86,291票	選挙区
当	7区	中谷一馬	87,819票	比例区
当	12区	あべともこ	86,550票	選挙区

神奈川ネットは、選挙区では5人を推薦し、1人を地域ネット推薦しました。比例区では多くの地域ネットが立憲民主党を推薦・支持しました。また、これまで連携して活動してきた大河原まさ子さんが、立憲民主党比例区北関東ブロックで当選しました。

最終日吉駅前 枝野幸男代表を迎えて



6区 あおやぎ陽一郎さん

1区 しのはら豪さん



12区 あべともこさん

若者の支援者が続々現れ、駅頭では高校生もチラシを配ってくれました。学生のチラシの受け取りも良く、多くの聴衆が街宣での訴えを立ち止まって聴くなど、立憲民主党の追い風もあり手応えを感じました。老若男女が参加し市民選挙の輪が広がりました。（植木裕子/ネット藤沢）



就労支援プロジェクトでは、生活困窮者自立支援制度による認定就労訓練事業に注目し、特定非営利活動法人ユースポート横濱と調査・研究を進めています。困難を抱える人たちの就労支援に関わるこの事業について、実施状況や課題などを活動現場から見ていると、10月22日に、横浜市内にある2つの認定就労訓練事業所に出かけました。

更生施設と救護施設を視察 専門性を活かした就労訓練 就労支援プロジェクト



1カ所目は、更生施設「民衆館」です。生活保護を受給する单身男性が、入所しながら規則正しい生活と施設内での簡単な作業などを通じて、自立・社会復帰に向けてサポートを受ける施設です。ここでは通所事業も行われており、こうした施設の特性を活かして、就労訓練事業を実施しています。2カ所目の救護施設「浦舟園」では、対象者が就労訓練を受けるた



道路環境整備に連携強化を

佐々木ゆみこ（ネット宮前/県議）

交通違反をした際に支払う反則金は、国庫に納められたのち事故の件数などを毎年考慮しながら「交通安全対策特別交付金」として県の一般会計に繰り入れられます。この交付金は交通施設の設置と管理などだけに使用することが出来ると決められています。昨年、神奈川県にも14億余円が交付されています。しかし一般会計に繰り入れられるため、道路改良は土費に、信号や標識、横断歩道などの管理は警察費になるなど、その用途は見えづらくなっています。さらに昨年、交通安全施策などに使われた支出は70億円ですが、用途の詳細はわからないとしています。反則金の使い方をHPなどで公開することは警察への信頼を

高めるものです。決算特別委員会で一層の情報公開を求めました。街路樹が大きく成長したため、道路標識が見えにくい、解りにくい所も見受けられます。市町村には街路樹剪定をこまめに行うほどの余裕はなく、また標識の管理は公安委員会が行うことになっているため、見えにくい標識の改善はなかなか進みません。高齢化が急速に進み、歩行者の安全確保とともに、増加する高齢ドライバー対策も必須です。2016年の交通事故の57%が市町村道で発生しています。事故を起こさないための見やすい標識、道路舗装などの環境整備は、関係機関との連携強化が不可欠になっていることを指摘しました。

福島子ども・こらっせ神奈川 「移動教室」から「交流」へ

事務局長 遠野はるひ (市民社会チャレンジ基金第22期助成団体)



「移動教室」は個人・団体の賛同金で運営されています。賛同人・団体には、プログラムの報告書とニュースレターをお送りします。

放射線被曝を軽減する対策の一つとして、放射能の影響が少ない地域に学校ごと移動して学ぶ「移動教室」があります。「福島子ども・こらっせ神奈川」は自治体と協力してこのモデルを作ろうと、大学生ボランティアの協力をえて、福島県楢葉町の子どもたちを対象に神奈川県山北町・横浜市で子どもたちだけの「保養」を2012年からスタート。思いはあってもお金も経験もない「こらっせ」が、「市民社会チャレンジ基金」をいただいたのはそのような時でした。プログラムを重ねる中で、福島・神奈川の地域間、子どもたち・大学生・大人の世代間、それぞれ「こらっせ」は個人・団体の賛同金で運営されています。賛同人・団体には、プログラムの報告書とニュースレターをお送りします。



安倍首相は消費税を幼児教育の無償化等に使うとして解散し、総選挙に勝利した。2020年度までに3〜5歳まで、すべての子どもたちの幼稚園や保育園の費用を無償化するとのことだが、ここにきて認可外保育施設の利用は対象としない方向であることが判明した。保育という言葉もあるくらい待機児童が多い現状で、認可保育園には入れず、無償化の対象ともならないとなれば、あまりに不公平だ。(C・M)

神奈川ネットは、地域政党です。生活の課題は政治に直結しています。国の政党が、地方の政治までコントロールするのではなく、多様な地域政党が政策を競い住みやすいまちをつくる社会をめざします。

今月の神奈川ネット ■就労支援プロジェクト視察(富士市、名古屋市): 11/14,15(火、水) ■介護の日フォーラム: 11/17(金) ■第26期市民社会チャレンジ基金審査委員会: 11/21(火) ■第10回運営委員会: 11/28(火) ■市民の生活・活動法律相談: 12/20(水)

https://twitter.com/korasse_kana